

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月13日
【四半期会計期間】	第74期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	グローリー株式会社
【英訳名】	GLORY LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三和 元純
【本店の所在の場所】	兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号
【電話番号】	079(297)3131(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理・財務本部長 藤川 幸博
【最寄りの連絡場所】	兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号
【電話番号】	079(297)3131(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理・財務本部長 藤川 幸博
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 第2四半期連結 累計期間	第74期 第2四半期連結 累計期間	第73期
会計期間	自2018年 4月1日 至2018年 9月30日	自2019年 4月1日 至2019年 9月30日	自2018年 4月1日 至2019年 3月31日
売上高 (百万円)	109,587	108,505	235,762
経常利益 (百万円)	6,913	8,316	20,575
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	3,822	4,859	12,256
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	7,925	2,419	13,820
純資産額 (百万円)	195,285	186,063	193,257
総資産額 (百万円)	300,109	308,157	318,228
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	61.12	80.43	198.71
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	63.9	59.9	59.5
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	4,433	10,266	24,300
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	3,442	6,479	11,388
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	8,627	10,248	361
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	55,254	67,424	75,149

回次	第73期 第2四半期連結 会計期間	第74期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年 7月1日 至2018年 9月30日	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	50.16	54.84

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定において、「役員報酬B I P信託口」及び「株式付与E S O P信託口」が所有する当社株式を自己株式として処理していることから、期中平均株式数は当該株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループにおける新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善を背景に、個人消費の持ち直しや設備投資の増加がみられるなど、緩やかな回復基調が継続いたしました。一方、世界経済につきましては、米国では、米中通商協議の先行きが懸念されるなか、景気回復の動きは持続し、欧州でも、英国のEU離脱問題等を背景とする先行きの不透明感はあったものの、景気は緩やかな回復が続きまして。また、アジアでは、中国で緩やかな景気減速が見られたものの、全体としては堅調に推移いたしました。

こうした状況のなか、当社グループは、2018年4月からの3ヶ年を計画期間とする『2020中期経営計画』の2年目として、「持続可能な事業運営の基盤づくり」、「社会課題解決に向けた協働の取組み強化」、「成果に直結する生産性の向上と企業体質の強靱化」の3方針の下、積極的な事業展開を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、108,505百万円（前年同期比 1.0%減）となりました。このうち、製品及び商品売上高は、73,015百万円（前年同期比 3.6%減）、保守売上高は、35,489百万円（前年同期比 4.9%増）でありました。利益につきましては、保守売上高の増加やプロダクトミックスの改善等により営業利益は、9,018百万円（前年同期比 28.6%増）、経常利益は、8,316百万円（前年同期比 20.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、4,859百万円（前年同期比27.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### （金融市場）

主要製品である「オープン出納システム」及び窓口用「紙幣硬貨入出金機」の販売は、大口需要の反動により低調でありました。

この結果、当セグメントの売上高は、22,335百万円（前年同期比 21.5%減）、営業利益は、2,068百万円（前年同期比 41.5%減）となりました。

#### （流通・交通市場）

主要製品である「レジつり銭機」の販売は堅調であり、「券売機」の販売は好調でありました。

この結果、当セグメントの売上高は、25,483百万円（前年同期比 5.5%増）、営業利益は、2,919百万円（前年同期比 41.1%増）となりました。

#### （遊技市場）

主要製品である「カードシステム」等の販売は堅調であり、ホール向け「賞品保管機」の販売も堅調でありました。

この結果、当セグメントの売上高は、10,543百万円（前年同期比 10.0%増）、営業利益は、1,293百万円（前年同期比 70.1%増）となりました。

#### （海外市場）

米国では、金融市場向け「紙幣入出金機<RBGシリーズ>」の販売が順調であり、流通市場向け「紙幣硬貨入出金機<CIシリーズ>」の販売も好調でありました。欧州では、金融市場向け「紙幣入出金機<RBGシリーズ>」の販売は低調でしたが、流通市場向け「紙幣硬貨入出金機<CIシリーズ>」の販売は順調でありました。また、アジアでは、「紙幣整理機<USFシリーズ>」の販売が順調でありました。一方、OEM製品であるATM用「紙幣入出金ユニット」の販売は低調でありました。

この結果、当セグメントの売上高は、47,564百万円（前年同期比 3.8%増）、営業利益は、欧州における改刷に伴うソフトウェアの売上高の増加等により、4,047百万円（前年同期比 240.9%増）となりました。

その他の事業セグメントにつきましては、売上高は、2,578百万円（前年同期比 66.2%増）、営業損益は、1,309百万円の損失（前年同期は営業損失 542百万円）となりました。

上記金額には消費税等は含まれておりません。

また、当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、次のとおりであります。

総資産は、前連結会計年度末に比べ10,071百万円減少し、308,157百万円となりました。主な要因は、現金及び預金7,273百万円、たな卸資産6,555百万円の増加、及び、有価証券15,055百万円、受取手形及び売掛金10,270百万円の減少であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ2,877百万円減少し、122,093百万円となりました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金4,476百万円の減少であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ7,194百万円減少し、186,063百万円となりました。主な要因は、利益剰余金2,853百万円の増加、及び、資本剰余金4,684百万円、為替換算調整勘定2,846百万円、非支配株主持分2,507百万円の減少であります。

この結果、自己資本比率は59.9%（前連結会計年度末は59.5%）となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ、7,725百万円減少し、67,424百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、10,266百万円のプラスとなりました（前年同期は4,433百万円のプラス）。キャッシュ・フローの主な内訳は、資金の減少要因として、たな卸資産の増加6,929百万円、法人税等の支払額3,034百万円、及び、資金の増加要因として、税金等調整前四半期純利益8,186百万円、減価償却費4,850百万円、売上債権の減少8,501百万円であります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、6,479百万円のマイナスとなりました（前年同期は3,442百万円のマイナス）。キャッシュ・フローの主な内訳は、資金の減少要因として、有形固定資産の取得による支出3,014百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,705百万円であります。有形固定資産の取得は、主に製品の製造に係る金型・治工具類等であります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、10,248百万円のマイナスとなりました（前年同期は8,627百万円のマイナス）。キャッシュ・フローの主な内訳は、資金の減少要因として、配当金の支払額2,006百万円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出6,585百万円であります。

## (3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、6,663百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## (6) 経営成績に重要な影響を与える要因

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「1.事業等のリスク」に記載のとおりであります。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	68,638,210	68,638,210	東京証券取引所(市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	68,638,210	68,638,210	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備 金増減額 (百万円)	資本準備 金残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	68,638	-	12,892	-	20,629

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	3,427	5.64
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	3,098	5.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,393	3.94
グロリーグループ社員持株会	兵庫県姫路市下手野1丁目3番1号	2,244	3.69
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	2,100	3.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,605	2.64
タツボーファッション株式会社	兵庫県姫路市東延末264番地	1,500	2.47
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM44 (常任代理人 香港上海銀行東京支店カ ストディ業務部)	P.O.BOX 1631 BOSTON, MASSACHUSETTS (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,284	2.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,111	1.83
グロリー取引先持株会	兵庫県姫路市下手野1丁目3番1号	1,044	1.72
計	-	19,810	32.60

- (注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式7,865,997株があります。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数は、同行の信託業務に係るものであります。
3. 日本生命保険相互会社から2011年4月7日付で近畿財務局長に提出された大量保有(変更)報告書により、2011年3月31日現在で以下のとおり株式を共同保有している旨の報告を受けておりますが、当社としては、2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、株主名簿上の所有株式数を上記「大株主の状況」に記載しております。
- なお、その大量保有(変更)報告書の内容は、次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	株券等保有割合 (%)
日本生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区今橋三丁目5番12号	3,697	5.39
ニッセイアセットマネジメント 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	181	0.26
計	-	3,878	5.65

4. 2018年9月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有(変更)報告書において、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社及びその共同保有者2社が、2018年9月14日現在で以下のとおり株式を共同保有している旨が記載されているものの、当社としては、2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」には含めておりません。

なお、その大量保有(変更)報告書の内容は、次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	株券等保有割合 (%)
シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内1-8-3	1,152	1.68
シュローダー・インベストメント・マネジメント・ノースアメリカ・リミテッド	英国 ロンドン ロンドン・ウォール・ブレイス1	1,456	2.12
シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッド	英国 ロンドン ロンドン・ウォール・ブレイス1	856	1.25
計	-	3,464	5.05



(6)【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 7,865,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,750,000	607,470	-
単元未満株式	普通株式 22,310	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	68,638,210	-	-
総株主の議決権	-	607,470	-

(注)1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式には、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が所有する当社株式は含まれておりません。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれておりますが、議決権の数の欄には同機構名義の議決権30個は、含まれておりません。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
グローリー株式会社	兵庫県姫路市下手 野一丁目3番1号	7,865,900	-	7,865,900	11.46
計	-	7,865,900	-	7,865,900	11.46

(注)上記のほか、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が所有する当社株式があります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	60,328	67,601
受取手形及び売掛金	57,170	46,899
電子記録債権	917	1,574
有価証券	15,556	500
商品及び製品	28,606	34,631
仕掛品	8,233	8,169
原材料及び貯蔵品	11,687	12,281
その他	6,218	5,742
貸倒引当金	574	747
流動資産合計	188,143	176,654
固定資産		
有形固定資産	34,829	37,716
無形固定資産		
顧客関係資産	19,108	18,561
のれん	44,245	42,170
その他	6,437	6,463
無形固定資産合計	69,791	67,195
投資その他の資産		
投資有価証券	12,302	12,101
その他	13,314	14,518
貸倒引当金	152	28
投資その他の資産合計	25,464	26,591
固定資産合計	130,084	131,503
資産合計	318,228	308,157
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,014	10,843
電子記録債務	7,461	7,646
短期借入金	23,369	27,313
1年内返済予定の長期借入金	4,476	-
未払法人税等	3,006	2,876
賞与引当金	7,852	6,599
役員賞与引当金	113	50
株式付与引当金	86	39
その他	33,087	30,073
流動負債合計	90,467	85,442
固定負債		
社債	20,000	20,000
株式付与引当金	240	261
退職給付に係る負債	3,031	2,954
その他	11,231	13,435
固定負債合計	34,503	36,651
負債合計	124,971	122,093

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	12,892	12,892
資本剰余金	20,938	16,253
利益剰余金	172,219	175,072
自己株式	23,884	23,770
株主資本合計	182,166	180,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	219	28
為替換算調整勘定	7,673	4,827
退職給付に係る調整累計額	820	752
その他の包括利益累計額合計	7,072	4,102
非支配株主持分	4,018	1,511
純資産合計	193,257	186,063
負債純資産合計	318,228	308,157

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4 月 1 日 至 2018年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年 9 月30日)
売上高	109,587	108,505
売上原価	69,003	65,054
売上総利益	40,584	43,450
販売費及び一般管理費	33,573	34,432
営業利益	7,011	9,018
営業外収益		
受取利息	79	97
受取配当金	84	87
投資事業組合運用益	6	88
その他	130	136
営業外収益合計	301	409
営業外費用		
支払利息	279	395
為替差損	27	388
持分法による投資損失	-	156
その他	91	171
営業外費用合計	398	1,110
経常利益	6,913	8,316
特別利益		
固定資産売却益	3	0
投資有価証券売却益	59	-
特別利益合計	62	0
特別損失		
固定資産除却損	19	14
投資有価証券評価損	-	116
その他	0	0
特別損失合計	19	131
税金等調整前四半期純利益	6,956	8,186
法人税等	2,465	2,715
四半期純利益	4,491	5,470
非支配株主に帰属する四半期純利益	669	610
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,822	4,859

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	4,491	5,470
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28	191
為替換算調整勘定	3,435	2,927
退職給付に係る調整額	26	68
持分法適用会社に対する持分相当額	-	0
その他の包括利益合計	3,433	3,050
四半期包括利益	7,925	2,419
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,532	1,889
非支配株主に係る四半期包括利益	392	529

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	6,956	8,186
減価償却費	4,377	4,850
のれん償却額	1,801	1,903
貸倒引当金の増減額(は減少)	68	88
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	364	24
賞与引当金の増減額(は減少)	1,337	1,193
株式付与引当金の増減額(は減少)	8	26
受取利息及び受取配当金	164	184
支払利息	279	395
売上債権の増減額(は増加)	4,279	8,501
たな卸資産の増減額(は増加)	3,706	6,929
仕入債務の増減額(は減少)	1,586	1,016
その他	3,752	2,929
小計	6,859	13,524
利息及び配当金の受取額	164	187
利息の支払額	245	411
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	2,344	3,034
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,433</b>	<b>10,266</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	26	64
定期預金の払戻による収入	65	64
有形固定資産の取得による支出	2,613	3,014
有形固定資産の売却による収入	4	0
無形固定資産の取得による支出	952	861
投資有価証券の取得による支出	29	1,058
投資有価証券の売却及び償還による収入	158	157
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	1,705
その他	47	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,442</b>	<b>6,479</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	300	4,513
長期借入金の返済による支出	4,503	4,493
リース債務の返済による支出	-	521
配当金の支払額	3,195	2,006
非支配株主への配当金の支払額	1,227	1,154
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	6,585
自己株式の取得による支出	0	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>8,627</b>	<b>10,248</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	438	1,263
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	7,197	7,725
現金及び現金同等物の期首残高	62,375	75,149
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	77	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	55,254	67,424

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、Grupo Sortek, S.A. de C.V.の全発行済株式を取得したため、連結の範囲に含めております。また、CTS Solutions S.r.l.は、Sitrade Italia S.p.A.を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当該会計基準の適用による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

(1) 従業員の銀行からの借入金(住宅資金)に対し保証を行っております。

前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
19百万円	18百万円

(2) 当社グループの得意先が抱えるリース債務に対し保証を行っております。

前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
48百万円	29百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
給料手当	11,477百万円	11,962百万円
賞与引当金繰入額	2,870百万円	2,778百万円
退職給付費用	906百万円	858百万円
株式付与引当金繰入額	91百万円	84百万円
減価償却費	2,234百万円	2,881百万円
賃借料	2,377百万円	1,975百万円
のれん償却額	1,801百万円	1,903百万円



(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	54,001百万円	67,601百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	746百万円	177百万円
譲渡性預金	2,000百万円	-百万円
現金及び現金同等物	55,254百万円	67,424百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	3,198	51	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

(注) 基準日が2018年3月31日の配当金の総額には、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が所有する当社株式に対する配当9百万円が含まれております。また、1株当たり配当額51円には、創業100周年記念配当20円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月6日 取締役会	普通株式	1,943	31	2018年9月30日	2018年12月5日	利益剰余金

(注) 基準日が2018年9月30日の配当金の総額には、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が所有する当社株式に対する配当5百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	2,005	33	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

(注) 基準日が2019年3月31日の配当金の総額には、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が所有する当社株式に対する配当12百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月7日 取締役会	普通株式	1,944	32	2019年9月30日	2019年12月5日	利益剰余金

(注) 基準日が2019年9月30日の配当金の総額には、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が所有する当社株式に対する配当10百万円が含まれております。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2019年6月24日付で、連結子会社であるSitrade Italia S.p.A.の株式を追加取得いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が4,684百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)  
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融市場	流通・交通 市場	遊技市場	海外市場	計				
売上高									
外部顧客への売上高	28,461	24,149	9,586	45,839	108,036	1,551	109,587	-	109,587
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	28,461	24,149	9,586	45,839	108,036	1,551	109,587	-	109,587
セグメント損益	3,537	2,069	760	1,187	7,553	542	7,011	-	7,011

(注)1. 「その他」の区分は、上記の報告セグメントに属さない製品及び商品であります。  
 2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)  
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融市場	流通・交通 市場	遊技市場	海外市場	計				
売上高									
外部顧客への売上高	22,335	25,483	10,543	47,564	105,927	2,578	108,505	-	108,505
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	22,335	25,483	10,543	47,564	105,927	2,578	108,505	-	108,505
セグメント損益	2,068	2,919	1,293	4,047	10,327	1,309	9,018	-	9,018

(注)1. 「その他」の区分は、上記の報告セグメントに属さない製品及び商品であります。  
 2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	61円12銭	80円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,822	4,859
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,822	4,859
普通株式の期中平均株式数(株)	62,533,954	60,416,077

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 純資産の部において、自己株式として計上されている「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」に残存する当社株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間173,035株、当第2四半期連結累計期間356,203株)。

(重要な後発事象)

(自己株式の消却)

当社は、2019年11月7日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式の消却を行うことを決議いたしました。

1. 自己株式の消却を行う理由

資本効率の向上及び株主利益の向上を目的として、自己株式の消却を行うものであります。

2. 自己株式の消却の内容

- (1)消却する株式の種類 当社普通株式  
 (2)消却する株式の総数 5,000,000株(消却前の発行済株式総数に対する割合 7.28%)  
 (3)消却予定日 2019年11月29日

(ご参考)

消却後の発行済株式総数 63,638,210株  
 消却後の自己株式数 2,865,997株(\*)

(\*)2019年10月31日時点の自己株式数を基準に算出しております。

2【その他】

2019年11月7日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ) 中間配当による配当金の総額.....1,944百万円  
 (ロ) 1株当たりの金額.....32円  
 (ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月5日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

- (二) 上記中間配当に伴う利益準備金の積立額はありませぬ。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月8日

グローリー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 増村 正之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 菱本 恵子 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 康弘 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているグローリー株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、グローリー株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。